



Title	第二次新田文庫暫定目録（一）
Author(s)	池田, 光子
Citation	懷徳堂研究. 2024, 15, p. 99-137
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/100558">https://hdl.handle.net/11094/100558</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 第二次新田文庫暫定目録（一）

池田光子

### 前言

本資料目録は、大阪大学が所蔵する「第二次新田文庫」の目録である。第二次新田文庫とは、懷徳堂の歴代学主を輩出した中井家の子孫にあたる新田和子（生没年未詳）が、昭和五十八年（一九八三）に、懷徳堂・友の会を経て、大阪大学に寄贈した資料群である。なお、寄贈の経緯や二種の仮目録の紹介、目録整備の必要性等については、拙稿「第二次新田文庫について」（本誌第十二号、二〇二一年二月）にまとめている。この内容を踏まえ、第二次新田文庫について、以下、簡単に紹介する。

懷徳堂は、享保九年（一七二四）に大坂に誕生した学問所である。隆盛時には昌平黌と並び称されるほどで

あったが、明治二年（一八六九）に閉校となる。関連資料は一部売却、または関係各所に分配され、まとまった形では受け継がれなかった。散在する関連資料を精力的に蒐集し、保存に努めたのが、懷徳堂最後の預かり人・中井桐園（一八二三―一八八一）の子である中井木菟麻呂（一八五五―一九四三）である。木菟麻呂は、これらの蒐集した資料を数回に分けて懷徳堂記念会に寄贈したが、一部を手元に遺した。その資料を受け継いだのが、異母妹（後に養女）の終子（一八七七―一九五五）である。終子は、木菟麻呂の意思を受け継ぎ、懷徳堂関連資料の保存に努めるとともに、木菟麻呂の活動記録（懷徳堂及びロシア正教会関連）や著作類も整理し、懷徳堂関連資料と併せて、養女・和子へと託した（新田は嫁した先の姓）。和子は、終子の活動記録についても整理・保存し、受け継いだ資料と併せて新田家に保管していた。しかし、

保存場所の関係上、かさばる書籍類を中心にしたもの、吹田市内のハリストス正教会に寄託し、終子が特に保管を遺言した印章などを含む残りの資料を新田家で保管することにした。<sup>①</sup>後に、ハリストス正教会へ寄託していた分が、昭和五十四年（一九七九）に大阪大学へと寄贈され、現在は「第一次新田文庫」と称されている。そして、新田家で最後まで保管していた資料群が、第二次新田文庫に該当する。

第一次、第二次ともに資料の内容は大きく次の三つに分類できる。

① 懷徳堂及び水哉館関連資料

② 木菟麻呂自身に関連する資料

③ 終子に関する資料

前述のとおり、木菟麻呂は①の一部を手元に遺し、他は全て懷徳堂記念会に寄贈している。手元に遺した判断基準は現時点で未詳だが、第一次、第二次、それぞれの新田文庫が所蔵する①は、懷徳堂四代学主中井竹山（一七三〇～一八〇四）やその弟履軒（一七三二～一八一七）を始めとする中井家の人々の草稿類や書簡、文具、そして終子が家での保管を望んだ印章類が主な物であり、「懷徳堂」と言うよりは、中井家の私的資料と言う性質を強

く感じる。おそらくは、これが一つの判断基準だったのではないかと推察される。②は、木菟麻呂が懷徳堂または水哉館を復興するための活動記録や、入信していたロシア正教会に関する活動記録、そして長年にわたる日記類である。特に日記類は当時の事を時系列で知ることができる貴重な資料である。なお、終子もロシア正教会に入信しており、③にはそれらの記録が遺っている。また、終子の私塾（楓樟塾）に入塾していた清国留学生およびその父兄との書簡や、東京女子神学校や大阪の梅花高等女学校での勤務に関わる記録なども見られる。以上に紹介した資料の特徴を総括すると、新田文庫とは、中井家資料群であると言えよう。

第二次新田文庫が寄贈されたことを真つ先に伝えたのは、「中井家資料（旧新田文庫）」（『懷徳』第五十二号、懷徳堂記念会、一九八三年十二月）である。このタイトルにも表れているとおり、昭和五十四年（一九七九）に寄贈を受けた第一次分については、旧蔵者の姓を付け、「新田文庫」としたが、昭和五十八年（一九八三）寄贈の第二次分の資料内容も鑑み、第一次と第二次とを併合して「中井家資料」と名付けようとしていたことが記されている。しかし、この名称は呼称として定着せず、現在も「新田文庫」と称されている。

新田文庫は中井家の私的資料群ではあるが、懷徳堂や日本におけるロシア正教会の活動を窺う上で有益な資料が多数含まれている。しかし、第一次、第二次ともに、その内容を窺うことができる目録が無かったためか、文庫の存在は広く知られることの無いまま伝えられてきた。筆者はその状況を受け、平成十六年（二〇〇四）と翌年とに分けて第一次新田文庫の目録を作成した<sup>③</sup>。そうして数年前より、第二次分の作成にも着手したが、作業は予想よりも難航し、未だに完成には至っていない。作業が遅延している主な原因は、コロナ禍を除き、以下の二点にある。一つが、資料数である。前掲の「中井家資料（旧新田文庫）」には、大凡の資料点数が記載されているが、扱本類・道具類などは省略されていた。この省略されている項目の資料に加え、資料点数が判明しているものについても、「一点」の中に複数の資料が含まれていることが多々有り、予想を上回る調査時間が必要となった。もう一つが、資料の所在である。第二次新田文庫の一部の資料は、懷徳堂文庫内に散在しており、その搜索が必要作業となったため、予定していたよりも大幅に時間が必要となった。なお、第一次新田文庫は、受入の際に「E」から始まる連番を付している（Eの後ろに数字の連番）。第二次も「F」から始まる連番が付され

ているため、番号が途切れると資料が欠落していることが分かる。この欠落した資料の探索に加え、「F」を示す印が剥落している資料もあり、第二次新田文庫資料であるかの判断で時間を費やすこともあった。

第二次新田文庫資料が雑然とした状況となっている正確な理由は不明だが、その資料の殆どが器物であることが原因ではないかと推測している。懷徳堂文庫は大阪大学附属図書館の管理下にある。しかし、書籍は図書館所蔵だが、器物は大阪大学大学院人文科学研究科（文学部）に属している。つまり、図書館側の基本的な姿勢としては、資料保存の観点から、懷徳堂文庫内で器物も預かるが、その配置や状態などについては人文科学研究科（文学部）または懷徳堂記念会に任せる、と言うものである。その事を示すように、時折、懷徳堂記念会もしくは懷徳堂研究センターが整理しようとしていた痕跡を目にすることがあった。なお、書籍と器物、それぞれの所属については、竹腰礼子「大阪大学懷徳堂文庫のなりたちと蒐集の経緯」（『懷徳』第七十号、懷徳堂記念会、二〇〇二年三月）に詳しい。以上に述べた理由から、本目録は未だ完成には至っていない。しかし、漸くF59までの資料は欠落なく確認することができた。全体の三分の一程度ではあるが、一旦ここまですべてを報告する。「（一）」とした所以である。

## 資料紹介

第二次新田文庫の正式な目録は無いが、直接資料を見た研究者たちや、懷徳堂の資料を用いた展覧会（WEB上で展示を含む）などによつて、一部の第二次新田文庫の貴重資料は、公開されている。それらも含め、改めてF59までの中で、特筆すべきと判断した資料数点を左に紹介する。

### F1 寄附寄贈物謝礼書類

寄贈感謝状類と資料名を列記した大福綴じの資料が含まれる。前者の感謝状類の中には、「懷徳堂刻額」が、大正五年（一九一六）に木菟麻呂から寄贈されたことを示す資料が含まれている。<sup>55</sup> 後者は、現在、懷徳堂の貴重資料と位置づけられる一三二点の資料名が挙げられ、値段が記されている。なお、作成日は同梱の資料から、明治四十三年（一九一〇）頃と推測される。表には「猶高くも安くも出来升」と書付があり、どのような目的で作成されたのか、今後の調査が俟たれる。

### F3 天生入信期間係短冊

「天生」とは木菟麻呂の号の一つである。木菟麻呂

はかつて懷徳堂内に住んでいた医師小林見宜の子孫（小林見蔵）からロシア正教会の教えを聞いたことを切っ掛けに入信した。二十四歳となる明治十一年（一八七八）には洗礼を受け、その後は日本におけるロシア正教布教の中心人物であるニコライ・カサートキン（一八三六―一九二二）を助け、聖書や祈祷書類の翻訳に取り組んだ。なお、ロシア正教会の布教における木菟麻呂の業績は、非常に高く評価されている。<sup>56</sup> 竹田健二『市民大学の誕生―大坂学問所懷徳堂の再興―』（大阪大学出版会、二〇一〇年）。しかし、儒学奢の家系であったため、縁者からは強い反発があった。そのことを「窘逐（<sup>57</sup> 迫害）」を受けたと記す記述が、本資料では確認できる。併せて、加古川で伝導していた時期の信者とのやり取りを示す資料もあり、木菟麻呂のロシア正教における初期の活動状況を窺うことができる有益な資料と思われる。

### F6 中井竹山書西岡詩三行書

印や書体から竹山自筆資料と思われる。「右西岡寓居 竹山」と署名されていることから、竹山が明和元年（一七六四）に妻の実家である西岡革島家に仮寓した時のものと思われる。この時期の詩文をまとめたものである『西岡集』と対照することで、よ

り情報が得られると予測している。

## F 12 履軒肖像

履軒の肖像画で最も著名なものは、懷徳堂文庫が所蔵する「中井履軒像」である。本資料は、この「中井履軒像」と構図が同一、且つ「中井履軒像」と同様、下絵段階のものである。双方の履軒肖像画の關係については諸説あるが、おそらく複数作成された絵様の一つであろう。<sup>7</sup>異なるのは、肖像画と共に貼り付けられているものである。「中井履軒像」は履軒の墓誌銘拓本が貼付されているが、本資料は「会虞 觀天地第一」と題する履軒の自筆草稿三枚が上部に貼付されている。<sup>8</sup>冒頭に「朕、宇宙の間に遊ぶこと七十載」と書き出されていることから、履軒七〇歳の寛政十一年（一七九九）の時点であるとわかる。（湯城吉信「中井履軒の宇宙觀―その天文關係図を読む―」（『日本中国学会報』第五七集、日本中国学会、二〇〇五年）肖像画と「会虞」とを併せた意図は不明だが、履軒の学問姿勢について、本資料の制作者の意図が反映されていると推察される。

## F 21 履軒宛奉公人（まつ）請状

本資料は、奉公人「まつ」の請状（雇い主にである履軒に出した誓約書）を軸装したものである。前

掲の加地伸行「懷徳堂物語（二）<sup>9</sup>」に、既に取り上げられている。加地によると、本資料は、中井家の床の間に飾る掛け軸（月二回かけ直し）の一つ（十二月）である。中井家の床の間を飾る一つとして、この資料がどのような意味を持っているのかは不明だが、興味深い資料であることは確かである。

## F 22 飯岡義斎与女（しづゝ梅し）書簡

「しづ」とは頼梅颯（<sup>ばいし</sup>一七六〇～一八四四）の名。梅颯は頼春水の妻であり、山陽の母である。歌人としても活躍した。飯岡義斎とは、大阪の儒者であり梅颯の父である。春水が結婚するとき、懷徳堂四代学主である中井竹山が仲人を務めた。本資料が新田文庫に受け継がれた理由は不明だが、竹山の子の碩果が梅颯の姪をめとるなど、両家の關係は深く、その繋がりを示す一つと捉えられる。

## F 31 履軒贈位関係文書・F 42 竹山贈位関係文書

F 31が中井履軒（大正三年）、F 42が中井竹山（明治四五年）の贈位に関する資料である。なお、今回の目録の中で、次の資料も贈位関係資料である。F 35「祭文告文」（三宅石庵（大正八年）の贈位に関する祭文）F 41「貽範贈位関係文書」（中井整庵（大正六年）の贈位関係資料。F 51にも関連資料がある）。

竹山と履軒については、贈位報告の墓前祭の記録もあり、招待客や参列者たちの一覧から、当時の交流状況を垣間見ることができ、貴重な資料である。なお、履軒の贈位に関し、木菟麻呂と懷德堂記念会との間で問題があったことを竹田健二が『市民大学の誕生―大坂学問所懷德堂の再興―』（大阪大学出版会、二〇一〇年）の中で指摘している。F31の中には、今井貫一や上松寅三らからの書簡があり、この問題に関する情報を含んでいる可能性が高い。

#### F34 履軒関係等遺稿断片

全てが履軒自筆資料であるとは断定しがたいが、履軒の筆跡と思われる資料が含まれており、中には『七経雕題』（履軒の経書注釈書の一つ）に関連する資料もあるため、興味深い資料群である。また、神主や喪服に関する資料もある。履軒の著作に『服忌図』があるが、これに関連する資料の一つではないかと考えられる。

#### F36 天生筆和文類

「三宅石庵小伝」と題された全二葉の草稿がある。末尾の署名から、木菟麻呂が大正五年（一九一六）に書いたものであることが分かる。今井貫一編『懷德堂先賢墨迹』（隆文館、大正元年）の巻末にある「懷

德堂先賢墨迹小伝」の三宅石庵の内容及一部一致するが、異なる部分も多い。また、本資料の後半には「石菴の筆迹」と見出しを付けた文章もあるが、これは『懷德堂先賢墨迹』にはない。木菟麻呂が中井家の先賢を顕彰しようとしていたことは明白であるが、本資料は中井家だけではなく、懷德堂の先賢についても木菟麻呂が自身の文章によって顕彰しようとしていたことを示す資料ではないかと推測される。今後の検討が俟たれる資料である。

#### F43 天生遺稿等

第一次新田文庫には、『秋霧記』（E250）や『鷗室記』（E283）など、多数の木菟麻呂の日記が遺されている。本資料の中にも、木菟麻呂の筆によると思われる日記が含まれている。但し、ほぼ同内容の抄本（草稿と思われる）があることから、後世人に見られることを想定して書かれたものと思われる。ほか、懷德堂や水哉館関連の資料譲渡に関する覚書や前掲F31の関連する資料、木菟麻呂が漢詩や国歌の削正や揮毫の仕事を請け負っていた資料や「七経雕題同略目錄」の草稿など、興味深い資料が多い。

#### F44 天生之水哉館関係文書

木菟麻呂・終子兄妹と清国（現在の中国）の留学



生たちとの交流を示す資料。

## F 45 天生書祭文

昭和九年（一九三四）に書かれた祭文四通。懷徳堂の資料を寄贈したことや「七経逢原」（履軒の経書注釈書群の一つ）の内、『夏書逢原』『古詩逢原』を入手したことを祖先に報告した祭文。なお、他の「逢原」の注釈書は、既に明治二十一年（一八八八）に木菟麻呂が入手している。欠けていた両書を懷徳堂記念会が昭和八年に偶然購入し、木菟麻呂へと寄贈。その時の祭文であろう。なお、昭和十四年には、「七経逢原」をまとめて懷徳堂記念会に寄贈している。

## F 48 天生遺稿

木菟麻呂の草稿類。西村天囚をはじめ、木菟麻呂の草稿に、松山直藏や倉石武四郎、武内義雄らの評が書き入れられているものがあり、おそらく景社に提出した作品と思われる。景社の具体的な活動の様子を知ることができる貴重な資料である。

## F 51 天生保存書類

木菟麻呂は昭和七年（一九三二）と十四年との二回、懷徳堂記念会に多数の懷徳堂関係資料を寄贈している。前掲のF 45で挙げた「七経逢原」もその一つである。本資料の中には、昭和十四年の寄贈に際

しての懷徳堂記念会とのやりとりに関する資料がある。寄贈の具体的な条件などは従来未詳であったため、それを知るための貴重な資料である。また、寄贈中止となった明治四十三年（一九一〇）に関する資料もあり、興味深い資料群である。

右に挙げたものの以外にも、興味深い資料はある。簡略ではあるが、左に記しておく。

F 2は、上田秋成の短冊が入っていると資料名に記されているが、詳細な調査に至っていないため、現時点ではいずれが秋成の短冊なのか不明である。秋成の短冊が特定され、その内容や由来が懷徳堂に関わるものであった場合、懷徳堂と秋成との交流を示す具体的な資料として、平成二十二年（二〇一〇）に七十六年ぶりに所在が判明した「鶉図」に並ぶ貴重資料となるであろう。F 37「中井養仙筆辞世・髹庵筆等中井家短冊」は、短冊が一四枚含まれている。内二枚は分けて「髹庵先生短冊並父君辞世」と記した包紙に包まれている。髹庵の父は中井玄端（一六四五―一七二〇）であり、髹庵の祖父が大坂中井家の祖となる養仙（一六二六―一七一一）である。資料名と一致しないため、内容の詳細な検討が必要であるが、玄端、養仙いずれに関する資料であっても希少資



料であることに変わりない。F 52「山田方谷・三島中洲文稿等」には、二松学舎大学の前身である漢学塾・二松学舎の創立者である三島中洲と木菟麻呂とのやり取りを示す資料がある。F 54「旧懷德堂及水哉館圖書目録」は、終子が昭和一九年（一九四四）に作成した目録である。どのような目的の下に作成されたのか現時点では不明だが、当時中井家で把握されていた懷德堂・水哉館資料の内訳や、当時の所蔵者を知ることができる、有益な資料と考えられる。F 59「拓本類」は、資料名のとおり、懷德堂や水哉館に関わる拓本をまとめたものである。中には、焼失した「懷德堂額」の拓本があり、貴重である。以上、筆者が目録作成の過程で気づいた貴重資料数点を紹介した。筆者の力不足により、見逃してしまったものも多々有ると思われるが、第二次新田文庫の資料的特徴が伝われば幸いである。

## 注

- (1) 「中井家資料」(旧新田文庫)〔懷德〕第五十二号、懷德堂記念会、一九八三年十二月 参照。
- (2) 水哉館は、中井履軒の私塾。
- (3) 「第一次新田文庫暫定目録」(懷德堂センター報二〇〇四、大阪大学大学院文学研究科・文学部懷德堂センター二〇〇四年二月)・「第一次新田文庫暫定目録(続)」(懷德堂センター報二〇〇五、大阪大学大学院文学研究科・文学部懷德堂センター二〇〇五年二月)
- (4) 前掲の拙稿「第二次新田文庫について」(本誌第十二号、二〇二一年二月) 参照。なお、二〇〇二年から二〇一〇年の期間に懷德堂研究センター職員を務められた井上了氏も資料整理に着手されようとしていた痕跡がある。
- (5) 「懷德堂刻額」は、残念ながら昭和二十年（一九四五）の大阪空襲によって、重建懷德堂の校舎と共に焼失。
- (6) 中村健之介・中村悦子『ニコライ堂の女性たち』(教文館、二〇〇三年)。
- (7) 加地伸行「懷德堂物語(二)」(『懷德』第五十二号、懷德堂記念会、一九八三年)、『見る』科学の歴史―懷德堂・中井履軒の目―(大阪大学出版会、二〇〇六年)、奥平俊六『懷德堂ゆかりの絵画』(大阪大学出版会、二〇一二年)
- (8) 「会虞 觀天第一」は、『履軒古風』に所収されている。

（9）（注7）に挙げた加地氏の論考を参照。

（10）景社とは、参加者が自作の漢文を持ち寄り、互いに添削し合った会。天囚の発案によるもので、毎月二十五日に行われた。

（11）飯倉洋一・濱住真有「中井履軒・上田秋成合賛鶉図について」

（本誌第三号、二〇一二年）参照。

## 目録

### 【凡例】

#### ① F 番号・分類

・資料は、第二次新田文庫受入時に付けられたF番号に従って配列した。本目録では、F1からF59までを対象としている。

・左の分類が付されている資料は、F番号の下にその情報を記載した。

器物・帖・掛軸・マクリ・扇子・短冊・書簡・

記録・天生関係・中井終子関係・天生終子関係

・資料番号が重複しているものは、F番号の上に「＊」を付した。

#### ② 資料名

・書籍等の場合は内題もしくは外題に基づく。器物類は、該当資料の包紙や封筒、箱への書付を基本とし、不明または不適切な場合は、第二次新田文庫資料の寄贈時に作成された「中尾目録」または、懷徳堂センターが第二次新田文庫の器物類を整理しようとした際に作成されたと考えられる「センター目録」（作成時期不明）を参考にした。

・ 目録に使用した文字は常用漢字を基本としたが、特殊な文字は原本通りとした。なお、判読困難な文字については「□」で示した。

③〔資料数〕

・ 枝番が付された複数資料で構成されている場合は、枝番数のみを記し、「〔備考〕」でそれぞれの資料点数を記載した。

④〔備考〕

・ 枝番資料の資料点数はここに記載した。  
・ 資料の特徴や内訳もここに記載した。

F1・記録68

寄附寄贈物謝礼書類

〔資料数〕 3袋・枝番号1／3～3／3

〔備考〕

● 1／3…1帳1枚。大福綴じ資料の方は、資料名（現在、貴重資料とされるものが多数）が132点挙げられ、それぞれに値段が記されている。また、表には「猶高くも安くも出来升」と記されている。1枚ものは、ここに列举された資料の一部を再度記したものであり、おそらくは作成日である「庚戌（明治四十三年）十一月」の記載がある。

● 2／3…1枚。木菟麻呂宛ての大阪府からの感謝状のようなもの（大正十四年五月十九日）。懷徳堂書籍類を「攝政宮殿下行啓ノ際」台覧に供したところ、満足したため贈られた。

● 3／3…5枚。（1）宮内省博物館長山高信離宛ての寄贈書（明治二十一年五月二日）。「小西行長牙章一類」を宮内省博物館に寄贈する旨を記している。（2）天満社より寄贈感謝状（万延辛酉正月二十五日）。『逸史』13冊を寄贈。（3）懷徳堂記念会より寄贈感謝状（大正五

年十二月十八日)。「懷徳堂刻額(三宅石庵先生書)1面」を寄贈。(4) 大阪市編纂係より寄贈感謝状(明治三十五年十月二十八日)。

大阪市の印は見られるが、用紙が簡易なものであるため、正式な書類か判断不能。4点の資料を寄贈。木菟麻呂が西村天囚または幸田成友の依頼を受けて行ったものではないかと推察される。(5) 川岡村孝子会長より寄贈感謝状(大正六年十月五日)。孝子義兵衛・孝女初に関するもの3点を寄贈。

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F2…短冊3

並河寒泉・上田秋成等短冊

〔資料数〕1帙70枚

〔備考〕

●平登茂樹(寒泉)、礼文、教寛、広淵、貞正、平尚教、中井及泉、網島文照らの名前が詠み手として確認できる。いずれの短冊が秋成のものかは不明(二〇二三年九月時点)。

F3…天生関係44

天生入信期間関係短冊

〔資料数〕1帙1包紙21枚

〔備考〕

●昭和十八年十月十七日付けの終子のメモあり。そこから、本資料群が、伊東家(伊東ソフィヤ、伊東エウヒミヤ)との歌・書簡をまとめたものであり、明治十四〜十五年頃のものであることが分かる。また、木菟麻呂が二十四歳の時に「宗教の為家門より窘逐を受け」たことが記されている。

●包紙の書き付けは以下の通り。「亡兄播磨に伝導の初年(明治十四五年の頃)伊東家の母子らと取かはしたる歌並に書簡、時に兄年廿余才にて宗教の為家門より窘逐を受け伊東家よりは特遇を受け居られしと聞く十六年十月十七日記す 終子」

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F4…天生関係48

天生筆 中井終子宛錢詩

〔資料数〕1帙1袋・枝番号1/2、2/2

〔備考〕

●1/2…1帙22枚。「示及泉詩十四章 並河華翁」14枚と短冊8枚。

- 2／2…1袋1枚。「餞詩一篇」1枚。終子が梅花女学校に就職した際、木菟麻呂が贈った詩。

F5…天生関係46

嵯峨九懷

〔資料数〕 9枚

〔備考〕

- 木菟麻呂作。82枚を繋いで9枚に仕立てている。

F6…マクリ14

中井竹山書西岡詩三行書（「門前馬車云々」）

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

- 分類が「マクリ」となっているが、軸装済。
- 冒頭の資料紹介箇所参照。

F7…掛軸55

観瀑図

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

- 外題「（十九）観瀑図」。

F8…掛軸47

並河寒泉詩幅（「喜菟孫疾癒」）

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

- 明治十一年作。

- 外題「（十二）樺翁先生喜菟孫疾癒詩」。

F9…掛軸52

中井天生書幅（「功名不可為忠義我所安」）

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

- 外題「（二十五）黄裳一行」。

F10…掛軸72

春雨図

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

- 菊□孝重画。

- 外題「（十五）春雨図幅」。

F11…掛軸54

中井天生書幅（「皇師進撃頌」）

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

●外題「(十六) 皇師進撃頌 黄裳」。

F 12…掛軸 45

履軒肖像

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

●肖像画上部に「会虞」の草稿3葉が貼付。

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F 13…掛軸 46

並河寒泉書幅〔黄裳命名云々〕

〔資料数〕 1幅

〔備考〕特になし。

F 14…掛軸 56

反堂先生草書

〔資料数〕 1箱1幅

〔備考〕

●早野小石二行書。

●外題「(二十六) 反堂先生草書」。

F 15…掛軸 73

顔真卿書

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

●「雖無文王猶興」拓本。

●外題「(二十四) 雖無文王」。

F 16…掛軸 34

採蓮図

〔資料数〕 1箱1幅

〔備考〕

●外題の位置に「(十七) 采蓮 蔀主画 履軒先生題  
蕉園先生題簽 天生謹摹」と書付。「蔀」は蔀関月を指  
すと思われる。

F 17…掛軸 31

解子伐袁

〔資料数〕 1箱1幅

〔備考〕

●外題の位置に「(四) 解子伐袁」と書付。

●履軒筆「解子伐袁図」の双鉤。

F 18…掛軸 10

五井蘭洲書幅〔鶴舞先年寿云々〕

〔資料数〕 1箱1幅

〔備考〕

●外題の位置に「(四)」と書付。

F 19…掛軸 33

逡巡碑

〔資料数〕 1箱1幅

〔備考〕

●分類が「掛軸」となっているが、双鉤。

●外題の位置に「(三) 幽人先生草出逡巡碑」と書付。

F 20…掛軸 51

中井桐園詩幅〔喜息生疾癒〕

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

●外題「(十三) 桐園先生喜息生疾癒詩」。

F 21…記録 43

履軒宛奉公人(まつ) 請状

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F 22…書簡 16

飯岡義斎与女(しづゝ梅し) 書簡

〔資料数〕 1箱1幅

〔備考〕

●外題「(廿四)(二七) 飯岡義斎先生与女静子手簡」。

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F 23…掛軸

竹山先生肖像画幅

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

●外題「(一) 竹山先生肖像画幅」。

F 24…掛軸 53

中井天生書幅〔貞烈垂儀範云々〕

〔資料数〕 1幅

〔備考〕

●終子が前橋の共愛女学校に就職する際に木菟麻呂が



送った書幅。

● 外題の位置に「(十六) 貞烈幅」と書付。

F 25… 天生関係 40

天生書往生院

〔資料数〕 1 包 1 巻

〔備考〕

● 包紙表の書付は「往生院へ寄進(改行)額面調整由来」。  
内題は「往生院門額寄進由来」。

● 大正九年八月の日付有り。

F 26… 記録 30

軸物中井家年中使用順序表

〔資料数〕 1 袋 1 枚

〔備考〕

● 袋の表に終子による「昭和二十四年十月十三日」の書付有り。

● 資料の表には「軸物使用序」と書付。

F 27… 短冊 2

中井竹山筆短冊

〔資料数〕 1 袋 1 枚

〔備考〕

● 天明丁未(天明七年)の日付有り。

● 竹山自筆の真偽については要検討。

F 28… 書簡 10

桐園亡父遺筆書簡一通、詩(庚辰) 1 紙

〔資料数〕 1 袋 1 通(書簡) 1 紙(詩)

〔備考〕 特になし。

F 29… マクリ 36・37

菊水稿

〔資料数〕 1 袋 1 包紙、1 紙、双鉤 3 枚

〔備考〕

● マクリ 36 と 37 は同梱されているが、分けるべき資料と  
思われる。

● 包紙表書きには、上段に「菊水書画幅三枚(改行)中  
井木菟麻呂端午幟(改行)象画賛(改行)美術ノ部へ  
移ス(改行)戒菟孫病状」と有り、下段には「双鉤(改  
行)並河寒泉先生書(改行)(寒泉先生)(改行)寒泉  
先生書」と有る。上段の「象画賛(改行)美術ノ部へ  
移ス」は枠線で囲まれている。

F 29 (重複)・マクリ 37

並河寒泉詩 (「菟孫蒲質脚病云々」)

〔資料数〕 1枚

〔備考〕 特になし。

F 30

漢文練習用原文数十枚 亡兄手写

〔資料数〕 1袋1包紙1枚

〔備考〕

●「亡兄」とは、おそらく木菟麻呂を指す。複文練習用紙。  
「一之上」「一之下」には、朱筆にて書き込み有り。

F 31・記録 54

履軒贈位関係文書

〔資料数〕 1箱1包紙17点

〔備考〕

●包紙に「文清家君贈位賀状」と書き付け。

●以下、17点に便宜上の番号を付して内訳を記す。なお、  
10・17は「贈位奉告祭」と書き付けした包紙で括られている。

1…葉書5通。木菟麻呂宛。

2…1枚。大阪市長より中井徳二(履軒)へと従四位

贈位の通知(大正三年十一月十九日付)。

3…仮綴1冊。履軒贈位に関する木菟麻呂への書簡10通を綴ったもの。差出人には今井貫一や上松寅三らの名前が見える。

4…1帳。木菟麻呂宛て書簡14通を綴じたもの。差出人には今井貫一や脇坂家(龍野藩主)、革島家、笹脇家らの名前が見える。

5…1枚。「中井履軒贈位奉告祭次第」。

6…書簡1通。住友吉左衛門より木菟麻呂宛て。

7…1枚。贈位に寄せた短歌が記されている。

8…1枚。木菟麻呂が「水哉館」の印章を摹刻した際に添付した印刷物カ。

9…葉書1枚。5の案内状。文面は次のとおり。「謹

啓陳者先人中井徳二以昨冬十一月十九日蒙贈位之恩命候に付来る三十日即第九十九回の忌辰に相当する陰暦二月十五日午前九時東区上本町四丁目誓願寺墓前に於て奉告祭執行仕度存候間同日時得御貴臨之栄度乍略儀以書面御案内申上候 敬具」。

10…書簡1通。

11…7の原本と思われる。

12…1枚。「墓前祭次第」。

13…1枚。木菟麻呂の告文。

14…1枚。神田区役所より、履軒への従四位贈位の通達（大正三年十二月二十五日）。

15…1枚（添付紙片1枚）。「中井履軒贈位奉告祭次第」添付紙片は、奏樂者名（5名）を記したもの。

16…奉告祭で作成した酒盃（履軒愛用のものの複製）の見積もりまたは作成費用カ。

17…1帳。「中井履軒贈位奉告祭参列芳名録」。天囚をはじめ、永田仁助、大久保利武、垂水善太郎、鹿田静七、並河總次郎や大阪市長らの名前が見える。

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F 32…掛軸 1

懷徳堂先賢遺稿類

〔資料数〕 13袋・枝番号 1 / 12 / 12 / 12

〔備考〕

●1袋は受け入れ時の包紙。書き付け等無し。

●1 / 12…1袋1枚。竹山宛書簡。差出人は六鳳。

●2 / 12…1袋1枚。筆者不明。

●3 / 12…1袋7枚4帳。7枚の内訳は未詳だが、中井碩果の和歌などを書写したものを含んでいる。

4帳の内訳は未詳だが三宅石庵や中井竹山、中井曾弘等、懷徳堂先賢のものを書写し

たものが多く含まれている。

●4 / 12…1袋2枚1帳。いずれも未詳。2枚については、『蕉園先生遺稿』や『橘隧先生詩集』の書名が見られる。

●5 / 12…1袋仮綴1冊。半葉10行の用紙4葉。冒頭に「碑誌考」と書き付け。竹山筆と思われる。

●6 / 12…1袋1冊。半葉10行の用紙7葉。劉基や高啓らの詩や題画を列挙している。筆者不明だが、履軒の筆跡に似る。

●7 / 12…1袋4枚。4枚の内1枚は別人の筆によるものか。内容未詳。

●8 / 12…1袋1枚。碩果の筆カ。

●9 / 12…1袋1枚。「夢記」と題したもの。筆者未詳。

●10 / 12…1袋2枚。1枚は筆者不明。1枚は中井曾縮筆。

●11 / 12…1袋仮綴じ1冊。冒頭に「早のことは」と有り。

●12 / 12…1袋1枚。半葉9行の用紙。筆者不明。「自君之出矣」や「簡友人」「画虎」「金氏室人蘭窓」等の詩が書写されている。

F 33…マクリ 27

早野反堂墓誌拓本等

〔資料数〕 1包紙1袋1包紙4枚

〔備考〕

- 包紙に「(橘隣先生) 竹山履軒両先生門下(改行) 早野反求先生墓誌(改行) 天保二年三月廿九日卒(改行) 皇紀二四九一年」と書き付け。
- 拓本3枚。拓本の文字を書写した紙1枚。

F 34・掛軸 38

履軒関係等遺稿断片

〔資料数〕 17袋・枝番号1/16、16/16

〔備考〕

- 1/16…1袋1枚。木村孝筆。履軒関連。鮎に関する作詩カ。
- 2/16…1袋1枚。隆秀筆(稲垣隆秀カ)。履軒との宴席における寄せ書き。
- 3/16…1袋1枚。福田以文筆。履軒の引越しを祝う作文。「己亥冬十月」と有り。
- 4/16…1袋1枚。筆者不明。「老婆心をよむ」と題され、履軒の『老婆心』に関すること(砂糖の件)が記されている。履軒の晩年の頃の力。

● 5/16…1袋1枚。「遺稿雜集」の付箋有り。

● 6/16…1袋4枚。3枚は半葉9行の用紙に『古文真宝』後集の目次が列挙されている(原類を除く)。1枚の前半は、「正統監本」と題し、『大学』『中庸』『論語』『孟子』『詩経』『書経』のそれぞれを挙げている。後半は、伊藤仁斎の四端説と拡充の説が取り上げられている。履軒の彫題の一部カ。

● 7/16…1袋2枚。筆者不明。筆跡は履軒に似る。

● 8/16…1袋1枚。唐代の「四百八十八万四千零六里」を和里に直した計算表。筆跡は履軒に似る。

● 9/16…1袋1枚。書写者不明。履軒の碑文カ。

● 10/16…1袋仮綴じ1冊、1枚。おそらくは双方とも『国語』『左伝』『孫子』等から数字句を抜き出したもの。学習のためのものか。筆者未詳。

● 11/16…1袋2枚。1枚は易の卦が13記されている。2枚目は半分は筆筒のサイズ、半分に「升」「蹇」の卦が記されるとともに弦のような図が記されている。

● 12/16…1袋2枚。筆跡は履軒に似る。1枚は神主の外箱の造作が記してある。1枚は神主の作成者や喪服の仕様、墓穴に用いた土や砂利につ

いて記録。途中で裁断されており、全体像は不明。

- 13 / 16 … 1袋1枚。筆者不明。「一神方油」と題され、椰子油や胡麻油、黄蠟、乳香、孤油の分量と値段が記されている。

- 14 / 16 … 1袋3枚。筆者不明。1枚は「大高戦図」と題されたもので、桶狭間の戦いに関する図カ。1枚は鹿島雙桶から十三川厓、川南厓から浪華橋まで等の歩数を計ったもの。1枚は地名の指す場所（大和ハ山南など）を記したもの。

- 15 / 16 … 1袋1枚。筆者不明。「顔氏家廟碑」のことカ。

- 16 / 16 … 1袋1枚。筆者不明。和歌に関する内容。

- 分類が「掛軸」になっているが、変更すべき。

- 冒頭の資料紹介箇所参照。

F 35… 天生関係 77

祭文告文

〔資料数〕 包紙1枚、目録1枚、包み21包

〔備考〕

- 資料数13点、包紙への書付は次の通り。「祭文告文類二十章 中井木菟麻呂作之」他二通弔家兄黄裳文在中、懷德堂代理吉田先生作 昭和十九年九月廿一日 終

子記」。

- 目録（おそらく終子作）には、「祭文告文二十章」と題して各祭文告文に（一）～（十九）までの番号を振り、それぞれのタイトルと作成年とが記されている。タイトルと目録に記載の作成日は次の通り。

（一） 天祐皇朝頌 明治廿三年十一月三日

（二） 賀立 皇太子表 同日紀元節

（三） 献寿重野成齋先生文 明治卅年仲春

（四） 至聖生神女庇護聖堂頌 明治四十三年七月

（五） 告 皇曾祖文恵先生文 明治四十五年三月廿三日

日

（六） 進奠梨実文 大正二年十月五日

（七） 進奠懷德堂印存文 大正二年十一月十六日

（八） 奉弔 征夷大將軍徳川公薨去文 大正二年十一月

月

（九） 告 皇曾祖文清先生文 大正四年三月三十日

（十） 重建懷德堂成告 師儒諸先生文 大正五年十月

五日

（十一） 祝詞一篇「祝並河誠所翁遷墓」 大正八年六月

十日

（十二） 祭 万年先生文「目録では「告三宅万年先生贈位文」 大正八年十一月贈位 大正十年十

月十六日奉紀

(十三) 三島中洲先生輓詞三種

(十四) 野作代蕨 柏巖禪師一百五十回忌

(十五) 擬頌一篇「頌修善寺村聖堂成」

(十六) 周易逢原印成告 文清家君文 大正十五年十一月廿日

日

(十七) 弔 西村君子駿文 大正十五年八月十一日

(十八) 弔 旭莊先生文 昭和七年十一月十三日

(十九) 遷 先墓告 諸先生文 昭和十三年四月十七

日

(二十) 天祐「包紙書付は「佑」 皇朝頌 後編 皇紀

二六〇二年紀元節書之 兄年八十八 米寿

※以上に加えて「哀詞」と題された弔文一通

F 36…天生関係49

天生筆和文類

〔資料数〕1袋1包紙50枚仮綴じ14冊短冊8枚(短冊のまともりに小紙片1枚有り)

〔備考〕

●包紙には「亡兄和歌和文類」と書き付け。

●和歌においては「橘嗣満」「嗣満」と署名している。

●和歌ばかりでなく、50枚の中には、「七経雕略弁言三則」

と題された文章も含む。

●仮綴じの中には、「賀主復活大聖堂重修辞」といったロシア正教会に関する資料や、「三宅石庵小伝」といった懷徳堂に関するものもある。

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F 37…短冊1

中井養仙筆辞世・髡菴筆等中井家短冊

〔資料数〕1箱2包14枚

〔備考〕

●1の箱に袋だけあり(「短冊箱へ」と記したメモ有り)。

●1包:包紙は『大主教ニコライ師事蹟』の表紙。短冊

12枚。「中庸逢原」と書かれた題簽1枚。

●1包:包紙に「髡庵先生短冊並父君辞世」と書き付け。

短冊2枚。

\* F 38…天生関係45

嵯峨にちなみある文章詩歌集

〔資料数〕21点

〔備考〕特になし。

\* F 38…天生関係45

磐上閣記

〔資料数〕 1袋1枚

〔備考〕

●大阪正教会の建物（三橋楼・大阪生神女庇護聖堂）に関する内容。木菟麻呂筆。

F 39

郷土伝記（日本ノ部）

〔資料数〕 1袋1包紙

〔備考〕

●サンデー毎日の切り抜き22枚。連載していた「文芸風土記」の【その三】から【その十四】までをまとめたもの（昭和四年一月二十日～同年四月二十一日）。【その九】は欠。

F 40・記録 35

天生筆懷徳堂関係草稿

〔資料数〕 1帙4冊、名刺3枚

〔備考〕

●名刺3枚は以下のとおり。「北島格（大阪朝日新聞社）」「井之邊天籟（大阪日報記者）」「奥村恒次郎（大阪毎日新聞社）」

●冊子4冊はいずれも仮綴じ。木菟麻呂「弘化以後の懷徳堂」の草稿、木菟麻呂「安政以後の大阪学校」の草稿（終子口述筆記・2冊）、木菟麻呂「已巳残愁録」の草稿。

F 41・記録 53

貽範贈位関係文書

〔資料数〕 1袋1包紙1通仮綴1冊

〔備考〕

●包紙に「貽範君贈位書状（範と君の間に「文恵文清三」の五文字が見せ消ち）」と書き付け。ちなみに包紙は、西村天囚が「御花料」を包んだ用紙（「御花料 西村時彦 金五円」と記されている）。

●書簡1通は、松山直蔵が木菟麻呂に宛てたもの（十一月二十日付け※大正六年と思われる）。

●仮綴1冊は、葉書3枚（内2枚は並河總次郎と羽倉信一郎。1枚は差出人未詳）と笹脇正造からの書面2枚と内山彼得（ロシア正教会関係カ）からの書簡1通を左肩で留めた物。

F 42・記録 55

竹山贈位関係文書



〔資料数〕1袋1包紙4帳1通17枚仮綴3冊

〔備考〕

●包紙には「文恵家君贈位賀状」と書き付け。

●1冊は7枚の用紙を左肩で留めたもの。用紙のサイズは混在。鶴屋八幡の領収書2枚（明治四十五年三月二十三日と二十四日）、懷德祭のための設備費（誓願寺に納入）の請求書と領収書1枚（明治四十五年三月二十三日）、金物や菰の領収書（三月二十三日）1枚、折り箱や握り飯の領収書（八百由、三月二十三日）1枚、献立表1枚（八百由が書いたものか）。

●1冊は「竹山贈位奉告祭ノ時ノ一般招待者 七十八名」と題されたもの。参列者には朱筆で圈点が付されている。

●右とほぼ同一の1冊。タイトルは「竹山先生贈位奉告祭ノ時ノ一般招待者 七十八名」。異同から推察するに、本資料が先に作成されたと思われる。右は控えカ。

●1枚は、大阪府より竹山への贈位記と辞令とを交付する旨の通達（明治四十五年三月五日）。10枚は、奉告祭での案内人などを依頼した人（旧門人と親族）からの葉書9枚とそのリスト1枚。2枚は奉告祭の案内状（印刷物、明治四十五年三月二十一日）、2枚は「竹酔黄裳題」と印刷された用紙。下部に「中井竹山贈位記

念（改行）擬懷德堂已有園方竹」とあることから、参列者への記念品に添付されたものと推察される。1枚は前川虚舟刻の「竹酔日吾以降」の印影（印刷）。1枚は一部の親族の名前を列挙したもの。

●1帳は寄付台帳。懷德堂記念会も三十円寄付している。

●1帳は支出記録。

●1帳は「明治四拾五年三月廿三日（改行）中井竹山御贈位墓前奉告祭参列芳名録（改行）祭主中井木菟麻呂」と表書きされた芳名録。

●1帳は、奉告祭に対する返信書簡（欠席者）をまとめたもの。

●1通は北島格と齋籐西男治（連名）とに宛てて木菟麻呂が書いた奉告祭に対する礼状の草稿。三月三十日の日付あり。

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F43…天生関係41

天生遺稿等

〔資料数〕6袋・枝番号1／6／6／6

〔備考〕

●1／6…1袋仮綴2冊。1冊は「水哉秘記」と表紙に書き付け。明治十六年八月十三日～明治二十

● 2/6…1袋1包紙仮綴2冊、6枚。包紙には、「水哉館関係書類一束」と書き付け。1冊は版心に「周易逢原 水哉館」と入った用紙を2枚クリップで留めたもの。内容は、「覚書一通」と題し、「贅菴先生記念堂」に関するものと、「懷徳堂遺物」に関するものとが書かれている（おそらくは木菟麻呂筆）。後者については、懷徳堂遺物は、懷徳堂の遺藏品と中井家祖先の品との二つに分かれるとし（水哉館遺物は除く）、価格が定めがたく、もし譲渡するならば高額となる旨（寄附の場合は別とする）が記されている。1冊は、縦二四、一×横一六・七cmの用紙2枚と二三・一×三三・六cmの用紙3枚を右上で止めたもの。「履軒先生

奉告祭案内先人名」と題されており、判型の小さい用紙には「現在懷徳堂記念会関係者」として35名、「案内スヘキ在阪有志者」として36名の名前が記載されている。判型の大きい用紙には、「親族」として26名、「旧門下」として15名、「旧学校関係者並知人」として13名記載されている。並河總次郎や革島氏（彦一・銚太郎）、淡輪氏や笹脇氏、渋谷芳太郎、幸田成友、太田源之助、高辻修長、木崎愛吉の名前が見られる。「洛西嵯峨に追孝祠堂を建つる議」と題した印刷物3枚。おそらくは、前述の「贅菴先生記念堂」に関連する資料。1枚は「七経雕題目録」と題したもの。懷徳堂文庫の貴重書の一つに、「七経雕題同略目録」があるが、この中にある「七経雕題目録」の草稿と思われる。「謹告」と題した印刷物1枚。木菟麻呂が京都に住居を移し、漢詩や国歌の削正依頼を請け負う仕事を始めたことを記したもの。「揮毫規定」と題した印刷物1枚。木菟麻呂が、揮毫を請け負う際の価格を記したもの。

● 3/6…1袋仮綴1冊。表紙には「呉山社詩友送別詩」

と「昭和十二年六月」の書き付け。いずれも木菟麻呂に宛てた詩。吉田鋭雄や酒井全らの名前が見られる。

- 4／6…1袋1枚。「天楽子」の署名と「明治十七年」の記載あり。

- 5／6…1袋仮綴1冊、7枚。1冊は、半葉9行の用紙4枚を右肩で綴じたもの。前半2葉は「重刊とはすかたりの跋」と題があるため、この跋文の草稿と思われる。おそらくは木菟麻呂筆。後半2葉は、画賛に対する木菟麻呂の意見・技術と、これらを伝播するための賛助を求める内容を第三者（旧懷徳堂門下生）がまとめ、紹介した文章。大正十一年十一月のもの。他7枚は、木菟麻呂が記した短文や和歌など。

- 6／6…1袋2枚。1枚は菅原修長（菅原道真の子孫）が、『洛汭奚囊』を手写して贈ってくれたことへの御礼。1枚は、木菟麻呂が信州諏訪湖に行った際のことについて、山崎兼が数首の歌を詠んだもの。
- 冒頭の資料紹介箇所参照。

F44…天生関係75

天生之水哉館関係文書

〔資料数〕12袋・枝番号1／16、16／16

〔備考〕

- 枝番号なし…1袋。もとの包紙が入っている。包紙には「亡兄黄裳遺稿 未完 妹終子編輯」と書き付け。

- 1／16…1袋1包紙1冊（仮綴）。「履軒先生遺著 華胥国記 ふきの言葉 歌のすがた」と表紙に書き付け。木菟麻呂が、書き付けにあるタイトルの印刷物（活字）を合綴したもの。

- 2／16…1袋1包紙1冊（仮綴）用紙2枚。用紙は、「景社文稿」の用箋に木菟麻呂の「江西水哉館記」が記されたもの。おそらくは、仮綴じから漏れてしまったものと思われる。冊子の方は、木菟麻呂の文章を集めたもの。中には、昌業安からの評がついたものがある。また、蔣智由について述べた文章や、呉山社の課題なども含まれている。

- 3／16…1袋2通。双方とも書簡の草稿。1通は王克敏宛て（昭和十三年十月）、1通は鈕永建。

- 4／16…1袋2冊（仮綴）。1冊は、『懷徳』掲載の木

菟麻呂「嵯峨九懷」の箇所のみを綴じたもの。  
1冊は、それを紙に貼り付け、注釈を書き込んだもの。

- 5 / 16 … 1袋1冊（仮綴3葉） 1枚。いずれも木菟麻呂に関する印刷物。1枚物は、「訳本比較神学序」、冊子は、明治天皇への頌。

- 6 / 16 … 1袋1冊（仮綴）。会席での歌をまとめたもの。木菟麻呂を含め、4名（無夷山人・其星・洛納）。

- 7 / 16 … 1袋1冊（3葉仮綴じ）。木菟麻呂「後聖空議序」の草稿。

- 8 / 16 … 1袋1帳。新聞記事（紙名は未詳）の切り抜きを綴じたもの。慥々亭主人「大阪に於ける黒船（一）」「大阪に於ける黒船（二）」、山田健亭「露国布恬廷提督并にオリガ嬢（一）」「露国布恬廷提督并にオリガ嬢（二）」「露国布恬廷提督并にオリガ嬢（三）」

- 9 / 16 … 1袋1冊（2葉仮綴） 1枚。1枚ものは、「懷徳堂印存附言」（印刷物）。冊子は、『懷徳堂印存』の木菟麻呂識語の部分のみを綴じたもの（印刷物）。

- 10 / 16 … 1袋3冊（仮綴、内1冊は破損） 3枚。3枚

の内2枚は「なには正教」。1枚は木菟麻呂の「薩華山崎教兄を懷ふ」（大正15年9月1日第19号）の切り抜き。もう1枚は木菟麻呂「故ニコライ大主教の日常」（昭和2年2月1日第24号）。3枚目は『覚醒』第37号の木菟麻呂「亡友薩華山崎兄の遺事」の切り抜き。仮綴本の1冊は、『正教新報』に連載した木菟麻呂談「故大主教ニコライ師の翻訳事業」をまとめたもの。1冊は綴じが壊れてしまっているが、木菟麻呂の「大阪府懷徳書院の教授中井竹山 大阪先賢列伝【七】」（『大大阪』第9巻第8号）、もう1冊は「水哉館主中井履軒 大阪先賢列伝【六】」（『大大阪』第9巻第7号）を切り取ったもの。

- 11 / 16 … 1袋4枚。新聞の切り抜き（紙名未詳）。切り抜きは、続きとなる箇所を貼り合わせて1枚としているものもある。以下、便宜上1～4の番号をふってそれぞれについて記す。

- 1 … 「贈位発表」中井忠蔵
- 2 … 「懷徳堂記念出版」「懷徳堂の記念祭 大阪実業家の盛挙」

- 3 … 「中井履軒の子孫 白髮童顔の高齡 中井天生

氏と語る」

4…「京大へされる 並河家の蔵書 珍籍も尠くない」

● 12／16…1袋1冊。『大阪商工祭合祀 商工業先覚者略伝』〔昭和十一年十一月一日二日於大阪城外大手前公園祭典執行〕（大阪商工祭協会）※竹山や重建懷徳堂関係者の名が多数挙がっている。

● 13／16…1袋1冊（仮綴）。表紙に「中井天生養生談」と書き付け。中身は雑誌より木菟麻呂の「佚齋樗山の養気法」を切り抜いたもの（掲載誌未詳）。

● 14／16…1袋1冊（仮綴）1包。包紙に「小説字彙 少年時代天生編」と書き付け。

● 15／16…1袋1枚。「送別の歌」。

● 16／16…1袋1枚。木菟麻呂に批正を求めたもの。

● 冒頭の資料紹介箇所参照。

F 45…天生関係 39

天生書祭文

〔資料数〕 1袋1包紙4通

〔備考〕

● 包紙には「祭文 四通 中井黄裳」と書き付け。

● 4通はそれぞれ包紙に包まれており、包紙には以下のタイトルが記されている。「修神主告家祖文」「寄進懷徳堂遺物告先賢文」「立継嗣告父祖文」「獲詩書逢原告履軒先生文」。

● いずれの祭文も昭和九年のもの。

● 冒頭の資料紹介箇所参照。

F 46…記録 69

中井二三関係書類

〔資料数〕 1袋1包19枚、紙片1枚

〔備考〕

● 紙片の用途不明。

● 包紙に「亡兄中井二三幼年ノ書 十二才ニテ没ス 「これはつかふべからず」ノ注意書ハ生母春老年ノ筆 終子志るす」と書付。

\* F 47…掛軸 23

竹山筆識語 赤壁賦

〔資料数〕 1袋仮綴1冊・枝番号1／3

〔備考〕

● F 47で重複していた三点は、枝番号で区分した。ここ

ではそれぞれ分けて記す。

- 表紙に「文衡山漢隸後赤壁賦臨本」と書き付け。本文4葉。

- 竹山の識語有り。

\* F 47…掛軸24

顔魯公書告身

〔資料数〕 1袋仮綴1冊・枝番号2／3

〔備考〕

- 筆者未詳だが、1／3と同様、竹山筆の可能性が高い。本文5葉。

\* F 47…掛軸25

双鉤草稿

〔資料数〕 1袋1帳・枝番号3／3

〔備考〕

- 岩田剛文編の『伊呂波帖』を双鉤にしたものと思われる。本紙36枚。

F 48…天生関係50

天生遺稿

〔資料数〕 1箱14袋・枝番号4／19、6／19、19／19

〔備考〕

- 4／19…1袋3枚。木菟麻呂宛て書簡。差出人未詳（小倉氏カ）。菅茶山に関する内容。

- 6／19…1袋1冊（仮綴、5葉）1枚。1枚物は、木菟麻呂「江西水哉館記」の草稿。頭注も有り。

仮綴じ本は、原稿用紙柱に「景社文稿」と入った用箋を用いた「後水哉館学案梗概」の草稿。

- 7／19…1袋2冊（仮綴）2枚。2枚物は、菅茶山が

並河天民について記した文章を書写したものである。仮綴じ本の内、一冊は「達並河老祖書」と題し、木菟麻呂が記した草稿。もう一冊は、並河天民の碑文に関するものと「刊七経逢原序」の草稿を合綴したもの。

- 8／19…1袋1冊（仮綴）。おそらくは、木菟麻呂が

幼少時に書いた詩文に、寒泉が朱を入れたものをまとめたもの。

- 9／19…1袋1枚。筆者不明。「或問楚辞茶経伊勢物

語古今和歌集、亦皆有雕題、共三十卷。云々」と始まる文章。おそらくは、履軒の著作を刊行するにあたって、木菟麻呂の記した序文類の草稿と思われる。

- 10／19…1袋1帳。木菟麻呂の草稿をまとめたもの。

中には、天囚に批正を依頼し、朱が入って戻ってきた物（「刊大学雜誌中庸論孟達原叙」）や「懷德堂旧址碑記」と題した草稿も有る。

- 11 / 19 … 1袋 1冊（仮綴）。木菟麻呂の草稿類を合綴したもの。蔣智由（性遂）への返信や稲束香山・西村天囚への弔文章稿等が見える。

- 12 / 19 … 1袋 2冊（仮綴）。木菟麻呂の草稿。双方とも版心下部に「景社文稿」と入った用紙を使用（一部異なるもの有り）。また、景社の課題とも思われる。1冊は、「反孔教論駁議」「疑字音考」「天説余論」「論語吾与回言章退而省私解」「大極疑義（これのみ用箋が異なる）」がまとめられており、松山直蔵や倉石武四郎、武内義雄ら景社メンバーの評が書き入れられている。1冊は、「論唐虞三代先聖信念」のみ。松山直蔵と藤澤黄坡（章）の署名が見える。

- 13 / 19 … 1袋 1包紙5冊（内、仮綴3冊）4枚。包紙には「教会方面ノ文」と書き付け。1枚は木菟麻呂の識語草稿。何に對してのものなのか不明。「保羅生天」と「天樂」の印記有り。1枚は「擬頌」と題した草稿。明治二十四年三月八日の日付が見える。残り2枚はセット。

木菟麻呂撰書となっているが、誰に對して寄せたものなのか未詳。大正五年四月の日付が見える。1冊は表紙題簽に「決」、本文の題名は「決志賦 并序」。本文は3葉。版心に「逸史」「懷德堂」と入った用箋を使用。木菟麻呂が孔門から正教会へと信仰を変えたことや寒泉の怒りなどが記されている。日付は「千八百八十一年七月五日」。木菟麻呂の署名と印が見える。1冊は表紙に「尼港の花」と書き付け。豊田旭穰に贈ったものであることが、木菟麻呂の識語から窺える。なお、末尾には旭穰の書き込みがある。1冊は「經典翻譯二関スル請願」の草稿。明治四十五年七月の日付が見える。仮綴1冊は「聖母瑪琍亜伝」の草稿。仮もう1冊の仮綴は、木菟麻呂草稿類を合綴したもの。いずれも正教会関係。

- 14 / 19 … 1袋 2包紙2点。1点は包紙に「おもひての桜符」と書き付けあり。中には書状形式で包紙のタイトルと同タイトルにて、女子神学校の学生との桜符りについての文章。冒頭に桜の押し花有り。1点は包紙に「外山の別」と書き付け。先述資料と同様に書状形式に「外



山のわかれ」と題し、女子神学校の学生との別れについて記されている。おそらくは、桜狩りに同行した学生と同学生カ。間に数個の押し花有り。

● 15 / 19 … 1袋1冊（仮綴）。「上山階親王書」。

● 16 / 19 … 1袋2冊（仮綴）。双方とも「弓詞」の草稿。

● 17 / 19 … 1袋1冊（仮綴）。「雜詩備忘」と表に書き付け。反故紙の裏面を用いて作成した冊子。なお、反故紙の中には、懷徳堂友会幹事からの書簡もある。

● 18 / 19 … 1袋1枚。「東山道」13国や「北海道」11国が記されている。木菟麻呂幼少時の手習いと思われる。用箋の版心に「大阪府下」「第三大区荻小区 好徳学校」と有り。

● 19 / 19 … 1箱4帳5枚。1枚は柳宗元「江雪」の拓本。その裏に「亡兄遺稿未撰抜」とあるため、拓本は資料の一部では無く、反故紙を用いてこれらの資料群の名称を示しているのではないかと思われる。いずれも木菟麻呂草稿類。なお、懷徳堂関連の遺書遺物類に関する極め書き（識語）が多く有り、これらについては、現在の器物類と突き合わせる必要があると思

われる。また、「博山香炉」が昭和三年製であることを示す資料など有り。ほか、明治二十一年、逢原以下十部百十八冊が六十五金にて売りに出されていたことを記している資料や、天囚の門人である岡山源六に贈った詩歌も有る。

● 冒頭の資料紹介箇所参照。

F 49… 天生関係 76

天生調査遺稿

〔資料数〕 12袋・枝番号1 / 12 / 12 / 12

〔備考〕

● 1 / 12 … 1袋1包紙。包紙のみ。「亡兄調査遺稿 廿一冊」と書き付け。

● 2 / 12 … 1袋1冊（仮綴）。「貽範先生行状」草稿。

● 3 / 12 … 1袋1冊（仮綴）。版心に「江西水哉館」とある用箋を使用。表に「論語逢原附録草稿 崑山先生手写本正誤 印本正誤 孟子逢原附録草稿 崑山先生手写本正誤」と有り。

● 4 / 12 … 1袋1冊（仮綴）。間に2枚有り（「漫筆 誠所先生草稿」と冒頭にタイトル）。雑記帳のようなものカ。「履軒小乗抄」とタイトルが

書かれたものや天民の遺稿に関する記述有り。

- 5 / 12 … 1袋1冊(仮綴)。冒頭に「通語備忘」と有り。

『通語』の語注のようなもの。完結している。

- 6 / 12 … 1袋1冊(仮綴)。目次一覽。何の目次かは不明。

- 7 / 12 … 1袋2冊(仮綴)。雑記帳。1冊は、末尾に

戸籍謄本の写しについての記述有り(終子についての件カ)。1冊は、おそらく『論語逢原』

に関して、崑山本と対照した際のメモ書きカ。

- 8 / 12 … 1袋1冊(仮綴)。版心に「吳山社稿本」と入った用箋を使用。冒頭に「絶海禪師語録抄」とタイトル有り。

- 9 / 12 … 1袋1冊(仮綴)。雑記帳。

- 10 / 12 … 1袋1冊(仮綴)。「京都府ヨリ正院工建言写」と題した文章があるため、学舎に関する記述

を集めたものカ。大阪新聞の記事写し書きも有り。

- 11 / 12 … 1袋5冊(仮綴)。各冊の冒頭に記されたタ

イトルは次の通り。1冊は「女流漢詩人」。

1冊は「朱雀院」。1冊は「女流詩家の興起」。

1冊は「国文学にあらはれたる漢学者」。1

冊は「吾孀筆譜抄」。

- 12 / 12 … 1袋1枚。『十三朝紀聞』巻四の中御門天皇に関する記述の写し。

F 50… 天生関係 47

嵯峨九懷自注等

〔資料数〕 3袋・枝番号1 / 3 / 3 / 3

〔備考〕

- 1 / 3 … 1袋2枚。1枚は「送 洛訥五子序」の草稿。

明治三十四年十二月二十六日の日付が見える。1枚は頌。正教会に関するものと思われるが未詳。

- 2 / 3 … 1袋1枚。木菟麻呂と終子の連名で稚暉呉への書簡の草稿カ。

- 3 / 3 … 1袋1包紙3枚。いずれも印刷物の切り抜き。

包紙には「中井天生壮年期ノ詩文 但シ印刷切抜ノミ」「昭和十九年十月五日輯成 終子」と書き付け。

F 51… 天生関係 79

天生保存書類

〔資料数〕 1箱1包紙書簡13通(内1通は2通分をまと

めたもの） 1 帳

〔備考〕

●包紙には「自宅保存書簡 重要書類」「懷徳堂水哉館書類」「寄附一件証書参考書類」と書き付け。

●書簡は二つに分けてまとめられている。念のため、そのまとまりに従い、便宜上丸数字を付けて以下に記す。

●一つ目のまとまり：①小倉正恒宛。木菟麻呂が資料寄付について報告したもの。昭和十四年三月の日付有り。

②木菟麻呂宛。「天生寄進」の印章作成について。③木菟麻呂宛。吉田鋭雄より資料寄付の件について。④

木菟麻呂宛。今井貫一より2通分。寄贈に関する件だが、懷徳堂と大阪府立図書館とで話し合い（大阪府立

図書館に寄託分についても懷徳堂記念会に寄贈するため）が行われ、支払金額の面についても狩野直喜らと

交えて話し合いが行われていたらしい。なお、今井は病氣療養中であつた模様。記念会に寄贈する際の覚書

案も2通目に有り。「中井氏御所蔵ノ懷徳堂並ニ水哉館諸先生ノ遺書遺品等ヲ現懷徳堂記念会ニ御寄附御申

込相成候ニ就テハ左記覚書ノ通リ中井氏御承諾ナラバ御交渉ニ応シ懷徳堂理事会ノ議ヲマトムヘク候事 懷

徳堂常務理事 今井貫一」「覚書案 一、中井木菟麻呂氏ハ永久保存ノ目的ヲ以テ懷徳堂並水哉館先賢ノ遺

書遺品全部従来大阪府立図書館ニ寄託ノモノヲ懷徳堂記念会に寄附スルコト 二、懷徳堂記念会ハ中井氏ノ

寄附ヲ受領シ寄附ノ趣旨ニ従ヒ之ヲ尊重保護スルコト

三、中井木菟麻呂氏ハ寄附ノ物品ヲ何時ニテモ使用勝手タルベキコト（一マス分空き）尚ホ中井氏希望ナレ

ハ遺書調査ノコトヲ記念会ヨリ依頼シテモ差支ナキコト、但シ依頼ノ御手当ハ差上ゲザルコト 四、懷徳堂

記念会ハ中井氏寄附ノ厚意ニ対シ感謝ノ意ヲ表シ金壹万円ヲ謝礼トシエ中井氏ニ贈呈スルコト（改行）但シ

金壹万円ノ内半金五千円ヲ寄附收受ト同時ニ贈呈シ残五千円ハ毎年壹千円宛ヲ明年ヨリ五ヶ年ニ割合セ贈呈

スルコト」11帳。木菟麻呂の草稿。大阪府立図書館（館長長田富作）への寄託品引渡請求書や①の草稿、「遺書及遺品ノ出版ニ関スル契約草案」など。⑤木菟麻呂

宛。木間瀬策三より終子が尋ねてきたが、不在だったことへの詫びなど。⑥木菟麻呂宛。江崎政忠より。

●二つ目のまとまり：①木菟麻呂宛。神田区役所より竈庵贈位の件（贈正五位）。②木菟麻呂宛。高辻修長より

光格天皇侍読胤長の件と「高辻公尺牘」。尺牘の身は次のとおり。「大昨所携朱文公大書墨本四幅偶供

御覽甚愜 聖旨因以猷之胤長歆喜何歇儻有所摺更惠一本（改行）竹山先生几前 前垂槐」③木菟麻呂宛。

上松寅三より先賢墨跡帖印刷の件と契約書。④木菟麻呂宛。大阪府立図書館より遺書類寄托の件について。府立図書館に記念室または記念館を作る話カ。⑤木菟麻呂宛。懷徳堂記念会（明治四十三年十二月二十三日の消印。記念会の事務所が大阪銀行集会所内にある）より諸先哲伝記史料蒐集の件について。⑥木菟麻呂宛。狩野直喜より先賢史料について。⑦木菟麻呂宛。狩野直喜より訪問を受けたが体調不良のために失礼したこ  
とへの詫び。

●冒頭の資料紹介箇所参照。

F 52・掛軸 69

山田方谷・三島中洲文稿等

〔資料数〕 5袋（内1袋は包紙のみ）・枝番号1／4、4／4。番号なし1袋。

〔備考〕

- 1袋1包紙…包紙には次の書き付け。「(山田方谷先生文稿合蔵) 一枚」「三島中洲先生 一枚」「蔣観雲先生 二枚」「安倍留治氏 一枚」「贈兄書 五枚」
- 1／4…1袋1枚。三島中洲が木菟麻呂に贈った詩。「逢君宛似帰郷里」。「大正丁巳九月」の日付

有り。

- 2／4…1袋1包紙2冊（仮綴） 1枚。包紙には「方谷先生少壮文稿」「并廣方谷先生感懷韻詩稿一紙 作者不詳」と書き付け。①1枚ものは「賡琳卿山田生感懷之韻」と「用前韻酬伯楫並河君」。②仮綴1冊は「与家弟書」。末尾に「伏乞（改行）刪正 山田球」と有り。3葉。③仮綴1冊は「書先師方谷先生少壮文稿後」と冒頭にタイトル有り。三島毅識（筆は息子の復が代書。大正六年九月と有り）。版心に「二松学舎」と入った用箋を使用。2葉。木菟麻呂が方谷の少壮文稿と無名氏の先師古風詩一首を持ってきたことに触れている。

- 3／4…1袋3枚。①1枚は蔣智由が木菟麻呂に贈ったマクリ。②1枚は蔣から木菟麻呂への書簡。③1枚は版心に「呉山社稿本」と入った用箋を使用。

- 4／4…1袋1枚。安倍留治が「寄懷黃裳中井先生」と題して送った文。冒頭に「升山履軒両夫子識見高邁云々」とあることから、安倍は懷徳堂関係者の子孫と思われる。

F 53…天生関係 72  
天生知友関係書簡

〔資料数〕 13通

〔備考〕

●中井七郎宛や中井次郎宛書簡があるが、筆跡などから  
書写の可能性が高い。

F 54…記録 2

旧懷徳堂及水哉館図書目録

〔資料数〕 1箱 1包 16冊

〔備考〕

●包紙表書きに終子による調査日の記載有り（昭和十九  
年九月九日調）。「旧懷徳堂八冊 及水哉館八冊 図書  
目録」それと書き付け。

●16帳の表には、それぞれにタイトルが書き付けられて  
いるほか、左上に番号が振られている。この番号は重  
複しているものがあり、どのような基準で付されたの  
か詳細な調査が必要で有るが、おそらくは、懷徳堂・  
水哉館・双方及器物類、の三種に分けてそれぞれに連  
番を付しているようである。但し、この基準で分けて  
も、疑問の残るものはあるが、現時点では、上の三種  
に従って、下に記す。

●中は朱で書き込みや注釈、何かと対照した形跡が見え  
る。

甲号（左上番号）…「懷徳堂水哉館遺書目録 并碑帖

掛軸扁額器物類」。

乙号上…「懷徳堂遺書目録 并碑帖掛軸扁額器物類」。

乙号下…「水哉館遺書目録 并碑帖掛軸扁額器物類」。

第一号…「懷徳堂先正著述目録 副 上」。

第二号…「髡庵蘭州竹山蕉園 四先生著書目録 伊藤

氏本」。

第三号…「竹山先生著書目録 並河氏本」。

第四号…「懷徳堂先正著述目録 副 下」。

第五号…「懷徳堂遺書目収録」。

第一号…「天保五年甲午十月下旬」「天楽楼書籍遺蔵目

録 副 衡校」「水哉館」。

第二号…「天楽楼蔵書 履軒小乗所載」。

第三号…「仮山畚蓋表目録 副」。

第四号…「懷徳堂遺書目拾遺 据懷徳堂先正著述目

録」。

第五号…「履軒先正著述目録 伊藤氏本」。

第六号第七号…「履軒先生著書目録 並河氏本」。

第八号…「水哉館遺書目拾遺 据宴楽楼書籍遺蔵目

録」。

第九号：「水哉館遺書目収録」。

●朱の入れ方や資料名の採り方等の凡例については、各帳の末尾に記載されている（一部なし）。

F 55・マクリ41

直指庵扁額拓本等

〔資料数〕 1包12点

〔備考〕

●包紙表書きに「隠元禪師 直指庵横額」「西山公（左右に傍線を引き、右に） 観海横額（左に） 残月亭（双方の間に）（拓本）」「佐藤迷羊氏書（肉筆）」と有り。

●「残月亭」…2枚。拓本。黄門公真筆臨摹刻（拓本の1枚は、その由来について記したもの）。

●「墨本目録」と題した紙片1枚。（一）～（二十二）までの連番を付した資料名（碑文・銘文の拓本）が記されている（例…「含翠堂拓本」や「頼梅颯墓碑」等）。

●和歌の記された紙片1枚。

●「直指庵横額 隠元書」…拓本4枚（1文字1枚＋署名と印）。

●「観海横額 水戸西山公書」…仮綴1冊。表紙に「非売品」「観濤閣」の印記。また、「常山西山碑」のタイトルと「観濤閣蔵」と印刷。内題は「常山西山碑」表

紙を除き本文2葉。末尾に手写にて著作者・印刷社名と印刷年月（明治二十二年七月） 出版年月（同年同月十三日）有り。拓本1枚。

●佐藤迷羊書マクリ2枚（双方とも印記有り）。

F 56・天生関係42

天生筆詩文稿

〔資料数〕 1冊

〔備考〕

●大福綴。本紙11枚。いずれも木菟麻呂の草稿。

F 57・マクリ6

古賀精里他四先生墓碑拓本

〔資料数〕 1包4枚

〔備考〕

●包紙表書きに「古賀精里 室鳩巢 柴栗山 尾藤二洲 四先生墓碑拓本」と書付。

F 58

中井しう関連鑑定書

〔資料数〕 1包

〔備考〕

- 「貴人隠山 井堀無泉」から始まる書面（和歌）1枚。
- 「説明書」…1冊仮綴。本文2葉。田中骨相学館で観てもらったもの。

- 「骨相学術応用鑑定書」…1枚。田中骨相学館応用所のもの。

- 「中井しう様 四柱推命鑑定書」…1冊抄本。

- 「鑑定書」…1冊抄本。中井シウ宛。小西観相所。久遠師という人物が鑑定。昭和六年七月の記有り。

F 59…マクリ44

拓本類

- 〔資料数〕1袋18包・枝番号1/16、16/16、17/17、番号なし

〔備考〕

- 番号なし…1袋1包紙。「拓本一束」と書付。

- 1/16…1袋1包紙（「懷徳堂額面」拓本）と書付  
拓本1枚。

- 2/16…1包紙（「履軒先生墓誌銘」と書付）拓本4枚。

- 3/16…1袋1包紙（「象戯引 履軒先生」と書付）  
拓本1枚。

- 4/16…「蕉園先生曠誌」の書付1枚。拓本2枚。

- 5/16…1包紙（「蕉園先生書墨本横物」と書付）墨

本1枚。

- 6/16…1袋・拓本2枚（「頼春水書 拓本」との付箋添付）。

- 7/16…1袋・拓本1枚（「五井蘭洲書 拓本」の付箋添付）。

- 8/16…1袋1包紙（「寄逢原堂詩 頼春水」と書付）  
拓本1枚。

- 9/16…1袋1包紙（「大主教ニコライ師墓碑」と書付）  
拓本2枚。

- 10/16…1袋・拓本2枚。1枚は「山陽母頼梅颯の墓碑」の付箋添付。もう1枚は「羽倉信一郎書」と書付た、「孝女閨菊墓」の拓本。

- 11/16…1袋・拓本1枚。「含翠堂」拓本の付箋添付。

- 12/16…1袋1包紙（「孔夫子肖像三枚」と書付）。

- 13/16…1袋3包紙。1つは「蘭亭記」と書付。拓本1枚（拓本の内題は「蘭亭真跡」）。1つは「寒山寺碑 墨本」と書付。拓本1枚。1つは「大

秦景教碑 一組四枚」と書付。拓本4枚。

- 14/16…1袋3包紙。1つは「不破関址碑記」と書付。拓本（印刷カ）1枚。1つは「洛陽三條橋石柱文」と書付。拓本1枚+拓本を文字に起こ

したもの1枚。1つは「吉野山 村上義光父子墓誌銘」と書付。拓本1枚。

● 15 / 16 … 1袋2包紙拓本1枚。①拓本（印刷物カ）は、

「東京帝国大学名誉教授重野先生碑銘」。②包

紙は「大楠公及小楠公墓碑銘」と書付。拓本

2枚。③包紙は「梅里先生御寿藏之碑 岡村

氏藏版」と印刷。拓本2枚。

● 16 / 16 … 1袋1包紙（「大石可笑書 拓本」と書付）

拓本1枚。

● 17 / 17 … 1幅1枚。拓本を裏打ちしたもののか。「歌器図」（『孔子家語』より）。

【資料名一覧（F1～59）】

F1…記録68

寄附寄贈物謝礼書類

F2…短冊3

並河寒泉・上田秋成等短冊

F3…天生関係44

天生入信期関係短冊

F4…天生関係48

天生筆 中井終子宛錢詩

F5…天生関係46  
嵯峨九懷

F6…マクリ14

中井竹山書西岡詩三行書（「門前馬車云々」）

F7…掛軸55

観瀑図

F8…掛軸47

並河寒泉詩幅（「喜菟孫疾癒」）

F9…掛軸52

中井天生書幅（「功名不可為忠義我所安」）

F10…掛軸72

春雨図

F11…掛軸54



- 中井天生書幅（「皇師進擊頌」）  
 F 12…掛軸 45  
 履軒肖像  
 F 13…掛軸 46  
 並河寒泉書幅（「黃裳命名云々」）  
 F 14…掛軸 56  
 反堂先生草書  
 F 15…掛軸 73  
 顏真卿書  
 F 16…掛軸 34  
 採蓮図  
 F 17…掛軸 31  
 解子伐袁  
 F 18…掛軸 10  
 五井蘭洲書幅（「鶴舞先年寿云々」）  
 F 19…掛軸 33  
 逡巡碑  
 F 20…掛軸 51  
 中井桐園詩幅（「喜息生疾癒」）  
 F 21…記録 43  
 履軒宛奉公人（まつ）請状  
 F 22…書簡 16
- 飯岡義斎与女（しづゝ梅し）書簡  
 F 23…掛軸  
 竹山先生肖像画幅  
 F 24…掛軸 53  
 中井天生書幅（「貞烈垂儀範云々」）  
 F 25…天生関係 40  
 天生書往生院  
 F 26…記録 30  
 軸物中井家年中使用順序表  
 F 27…短冊 2  
 中井竹山筆短冊  
 F 28…書簡 10  
 桐園亡父遺筆書簡1通、詩（庚辰）1紙  
 F 29…マクリ 36・37  
 菊水稿  
 F 29（重複）…マクリ 37  
 並河寒泉詩（「菟孫蒲質脚病云々」）  
 F 30  
 漢文練習用原文数十枚 亡兄手写  
 F 31…記録 54  
 履軒贈位関係文書  
 F 32…掛軸 1

- 懷德堂先賢遺稿類  
F 33…マクリ 27  
早野反堂墓誌拓本等  
F 34…掛軸 38  
履軒関係等遺稿断片  
F 35…天生関係 77  
祭文告文  
F 36…天生関係 49  
天生筆和文類  
F 37…短冊 1  
中井養仙筆辞世・贅菴筆等中井家短冊  
F 38…天生関係 45  
磐上閣記  
F 39  
郷土ト伝記（日本ノ部）  
F 40…記録 35  
天生筆懷德堂関係草稿  
F 41…記録 53  
貽範贈位関係文書  
F 42…記録 55  
竹山贈位関係文書  
F 43…天生関係 41
- 天生遺稿等  
F 44…天生関係 75  
天生之水哉館関係文書  
F 45…天生関係 39  
天生書祭文  
F 46…記録 69  
中井二三関係書類  
F 47…掛軸 23  
竹山筆識語 赤壁賦  
F 47…掛軸 24  
顏魯公書告身  
F 47…掛軸 25  
双鉤草稿  
F 48…天生関係 50  
天生遺稿  
F 49…天生関係 76  
天生調査遺稿  
F 50…天生関係 47  
嵯峨九懷自注等  
F 51…天生関係 79  
天生保存書類  
F 52…掛軸 69

- 山田方谷・三島中洲文稿等  
F 53… 天生関係 72  
天生知友関係書簡  
F 54… 記録 2  
旧懷徳堂及水哉館図書目録  
F 55… マクリ 41  
直指庵扁額拓本等  
F 56… 天生関係 42  
天生筆詩文稿  
F 57… マクリ 6  
古賀精里他四先生墓碑拓本  
F 58  
中井しう関連鑑定書  
F 59… マクリ 44  
拓本類